

| 事業所名 | | にじいろアルファ | | | | 支援プログラム (参考様式) | | 作成日 | | 年 | | 月 | | 日 | |
|-------------|-------------|--|--|-------|--|----------------|--|--|--|---------|--|----|--|----|--|
| 法人 (事業所) 理念 | | 児童の未来へとつながる支援を考え行動し、皆が安心できる事業所づくりをします。 | | | | | | | | | | | | | |
| 支援方針 | | 子どもたちが家庭外で社会生活を体験する中で、周囲との適切な関わりを学び、発達に応じたスキルを身につけることを目指します。社会的スキルの学習、発達段階に応じた個別の支援、家庭や地域、関係機関との連携を通じた一貫した支援を行い、子どもの自立と社会適応能力を育みます。また、安全で安心できる環境作りや、日常生活の中での学びを重視し、子どもの成長を支える支援を提供します。 | | | | | | | | | | | | | |
| 営業時間 | | 9 時 | | 0 分から | | 17 時 | | 0 分まで | | 送迎実施の有無 | | あり | | なし | |
| 支 援 内 容 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | 「健康状態の維持・改善」「生活習慣や生活リズムの形成」「基本的スキルの獲得」を狙いとした支援を行います。児童の自立度合いに合わせたスモールステップを用意し、食事、排泄、着脱等の基本的な生活スキルを獲得できるようサポートします。季節に適した服装や気温による暑さや寒さに応じた衣類の調整や身だしなみの意識向上を図ります。今日の予定や活動等をもせ見直しを立てるとともに規則正しいリズムで生活できる場を設けます。日常生活に必要なスキルの支援方法として具体的には、箸やスプーンの持ち方の練習 (箸でおもちゃをつまみ、器に移動する、スプーンでおもちゃをすくって容器に入れる。) やクリップを用いたのびも通しやボタン・テープアジャスターバックル等、指先に力が必要な日常動作の練習を行います。また、決まった時間にトイレへ促し、習慣化できるよう支援し、来所時にはファスナーを締めジャンパーを畳むといった身支度の場を設けます。 | | | | | | | | | | | | | |
| | 運動・感覚 | 「姿勢と運動・動作の基本的技能の向上」「身体の移動能力の向上」「保有する感覚の活用」「感覚の特性への対応」等を狙いとした支援を行います。児童の発達に応じた運動遊びを提供し、体幹バランスや運動能力の向上を目指します。粗大運動の発達を促すために手や目、足等の複数の体の部位の協調運動を体験します。また、感覚遊びによって視覚・聴覚・触覚等の多様な感覚刺激を通して刺激を受け止める力や快適な刺激を採る主体性を育みます。手先を使った積み木やピース遊び、はさみの練習といった微細運動を体験し、道具の活用法を学びます。両手の使い方や目と手の協応動作、手先の巧緻動作の向上を支援します。支援例：ポルダリクを活用したサーキット遊びやボールをキャッチし、狙いを定めて投げる練習、音楽やタンパリンの音に合わせて動物のまねをする、音が聞こえなくなったら止まるストップゲーム等の活動を通して楽しく取り組む力をつけていきます。 | | | | | | | | | | | | | |
| | 認知・行動 | 「認知の特性についての理解と対応」「対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得」「行動障害への予防及び対応」を狙いとした支援を行います。視覚・聴覚・触覚等の間隔を活用して情報を収集し、行動につなげられるようにします。数や大きさ、色等の概念の理解を促す支援や感覚、認知の偏りによるこだわりを緩和できるよう代替案を提案します。活動や課題の流れを見本や場所を視覚的に提示し、見直しを持って活動に参加できる様に環境づくりを行います。タングラムやレゴブロックで形の模倣や色のマッチングを通して同じものと違うものを見分ける力、ものを注視する力、集中力や観察力を養います。数字、大小といった目に見えない概念の理解を視覚化し繰り返し行うことでイメージをつけ、言葉を覚えていきます。タイマーや時計の数字を活用し、活動の始まりと終わりの時間を意識し、場面の切り替えと見直しをたやすくします。感情の乱れが見られた際には切り替えられるよう個室や本児の安心材料を設け、クールダウンを図り、気持ちのコントロール方法を学びます。 | | | | | | | | | | | | | |
| | 言語コミュニケーション | 「コミュニケーションの基礎的能力の向上」「言語の受容と表出」「言語の形成と活用」「人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得」「コミュニケーション手段の選択と活用」「状況に応じたコミュニケーション」「読み書き能力の向上」を狙いとした支援を行います。ことばによるコミュニケーションだけでなく、文字や記号、ジェスチャー等様々な方法を活用し、意思伝達が行いやすい方法で支援を行い、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりできるようにし、自分の意図が相手に伝わったという経験を積み重ねていきます。手遊びや絵本等を通して、語彙や言葉の知識を広げます。質問や応答する活動を通して他者とのやり取りや対話を楽しむことでことばの表現を増やしていきます。5W1Hのモデルで説明ができるように、言葉の並び替えを行い、繰り返し表現方法を学習します。また、気持ちの表現に難しさを感じている場合はラベリングを行い、自分の気持ちを表現できる手段を経験してもらいます。 | | | | | | | | | | | | | |
| | 人間関係社会性 | 「アタッチメント (愛着) の形成と安定」「あそびを通じた社会性の発達」「自己の理解と行動の調整」「仲間づくりと集団への参加」を狙いとした支援を行います。他者との関係構築や集団参加に向けた支援を行います。保護者以外の大人との関係やほかの子どもとの関わりの中で安定した関係が築けるように支援を行います。児童の発達に応じて遊び方を提供し、他者と過ごす楽しさを経験してもらいます。まずは「相手と場所の共有すること」から行い、段階に応じて「相手かいて成立する遊び」を通して、他者への関心を高めます。順番や座って待つ練習、物の貸し借りのある遊び、他者と協力する遊び等をし、ルールを守れた経験や「できた」「参加した」ことへ承認し、自己肯定感を高め、他者とのかかわりの上で必要な土台作りを行います。集団活動の場では主体性と自己肯定感を高めるために、自己選択の機会や自立心を養うためのお手伝いの場を設定し、対人交流の成功体験を積み重ねるよう支援を行います。感情のパロメーターを数字やイラストで提示を行い、気持ちの表現の幅を増やしたり、場面ごとに「どんな気持ち」かを考えるプリント学習を個別療育として行います。 | | | | | | | | | | | | | |
| 家族支援 | | 家族間での困り事や、子育ての悩みなどに対する相談援助や、定期的な個人面談を行います。 | | | | 移行支援 | | 進学、就労に関する情報提供および相談、助言を行います。関係機関との情報共有を行い、移行に向けての準備支援を実施します。関連事業所全体で進学、就労等希望に応じた支援を包括的に実施します。 | | | | | | | |
| 地域支援・地域連携 | | ゴミ拾い活動を通して地域交流を図っています。相談支援事業所、家庭児童相談室、学校等の関係機関と情報共有、支援者会議で連携を行います。ニーズに応じて児童にとって必要な環境調整や効果的な支援方法を関係機関に共有します。 | | | | 職員の質の向上 | | 事業所内研修、外部研修会の参加や動画による研修を定期的に行います。専門支援機関を通じ、定期的な見直しを行い、事例検討を実施する。 | | | | | | | |
| 主な行事等 | | 地下鉄でのおでかけやお買い物体験、季節に合わせたイベント (水遊び、夏祭り、ハロウィン、クリスマス会、雪遊び、正月遊び、節分等) や公園遊び、クッキング等を行います。 | | | | | | | | | | | | | |